

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会
〒771-0017徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
携帯 090-2891-5189
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2019年1月16日 No.233

2018「全国教職員学習交流集会 in 山梨」報告

昨年の12月1日2日、山梨県で行われた「全国教職員学習交流集会 in 山梨」に参加しました。この集会には、民主主義や子どもと教育・暮らしを守ろうと、全国各地の教職員の取り組みや運動の到達点を学び合うために、多くの組織から参加がありました。

豊富な内容でしたが、紙面の都合で、講演内容を中心に報告します。（阿南・那賀ブロック 久保）



安田菜津紀さんの講演

【講演】（抜粋）

演題「世界の子どもたちと向き合っ—災害、紛争の現場から—」

講師：安田 菜津紀さん（フォトジャーナリスト、TBS「サンデーモーニング」出演）

○「写真で伝える仕事」を選んだきっかけは

高校生の時に「国境なき子どもたち」という団体が派遣している「友情のレポーター」としてカンボジアに行った。内戦が続いていたカンボジアでは、貧困の問題があった。人身売買されて、過酷な労働をさせられたり体罰を受けたりした子どもたちと出会った。そのような子どもたちが一番に心配していたことは自分のことではなく、家族のことだった。そのころ自分のことしか守るものがなかった自分のことを恥ずかしく思った。帰国して何かお返しがしたいと思った自分には何もなかった。しかし自分には、自分の五感で感じてきたカンボジアがあることに気づいた。自分が感じたことを誰かと分かち合うことができるかもしれないという気持ちが今の仕事の出発点になった。

○災害や紛争の現場で人々の姿を写真に撮って伝えること

厳しい現実を知ることは苦しいことでもある。しかし“無知”が人を傷つけることも実感した。知った苦しみと少しずつ向き合っていくのか、それとも知らないまま過ごし、知らず知らずのうちに誰かを追い込んでしまうのか。本当に豊かな生き方はどちらだろうと自分に問い続けている。

「自分には何もできないんじゃないかな」「自分が行動しても何も変わらないかもしれない」という無力感を感じることもある。写真を撮っても直接人を助けることができないから。しかしそんな時、「これは役割分担なんです。あなたには、ここで何が起きているのかを世界に広めることができる」と言ってもらった。どんな立場にも職業にも必ず持ち

寄り合える役割がある。自分が感じている「無力さ」を忘れずにいることが大切。「今は何もできないけれど何かしたい」という気持ちが、将来、行動のチャンスが訪れたときに必ず花を咲かせる。

○出会った人たちに対する尊敬を大切に

私たちが生まれてきてよかったといえる社会にしたい。そのために自分にできることは、伝えることと託すこと。写真を通して伝えて、生徒さんと分かち合う。「みんなはどう?」「みんなだったら何ができる?」と。私が大切にしていることは、出会った人たちに対する尊敬。「あれだけの状況があるのに、どうして人のことを思いやれるんだろう。なぜ。」と感じている。自分が表現するときには、出会った感覚に近づけるような表現を心がけている。例えば、難民というくくりではなく「〇ちゃん」として。心の距離を縮める努力を惜しみたくないと思っている。

【参加しての感想】

講演や分科会のほかにも、基調提案、交流会、同室の人との交流など様々な場面で多くのことを感じ学んだ。

同室の長野県の実験科担当の方は、調理実習の時の子どもの様子を話してくれた。ある生徒は、野菜などの食材のにおいが臭いという。ファストフードやスナック菓子などに慣れ親しんでいるその子は、あまり食材に触れたことがない。だから臭い、食べられないと言う。しかし、実際に実習を行って食べてみると「おいしい」と言ってたくさん食べるようになる。スマホなどのモバイルに親しみ、バーチャルな世界に頼っている子どもたち。実際に人と話し、実際に体験して身を持って学ぶ。このようなことがあまりできていないことに危機感を感じている。また、名古屋の高校で教員をしている方は、職員室でも困ったことがあれば、ネット情報に頼り、自分で解決策を考えてやってみようとするのが苦手な教員のことを話していた。



現地高校生「ア・カペラ部」の合唱

生産性や効率を求め、いかに少ない労力で多大の成果を得るかということに重きを置く政策の在り方が、教育の現場でも具体的な形で多くの影響を与えている。例外を認めず、マニュアル化してその枠の中に人間を入れていくスタンダードという方法と人間の尊厳を大事にして育てていくということの乖離を感じた。

分科会で、「自由度を大きくすると、保護者が不安がる。発達障害がある子どもには見通しを持たせることが重要だが、見通しが持てる子には自由度を高めると力がついていく。こうしなさいと決めてそれを強制するのが問題。教育とは、子どもを真ん中において、工夫しながら個別にしていくのが大切なんだ」との発言を聞いた。

私は、「人間の尊厳を大切にすること」、「教育は子どもを中心に工夫しながら個別に考えていくこと」の2点の重要性を改めて学んだ。一つ一つの事例、一人一人のことがらにいていねいにかかわっていきながら、こんな教育観を、自校の職員室や身近なところで共有していきたいと思った。そしてそのためには、やっぱり条件整備が不可欠だなと思った。

楽しい学びの機会をくださって、ありがとうございました。

今年の「全国教職員学習交流集会」参加者を募集しています。

福島の教師が語る「子どもにやさしい学校・誰もが幸せになる学力」 ～生活指導研究会の学習会に参加して～

徳島生活指導研究会の合宿研究会が、今年の12月23～24日に福島県の古関勝則先生を講師に招いて開催されました。参加者は25人で、有意義な学習会となり、古関先生のレジュメをたくさんコピーして、早速職場の同僚に配っている参加者もいました。

若い3人の仲間が、学習会の具体的な内容が伝わってくる貴重な感想を寄せてくださいましたので、紹介させていただきます。



古関先生の講演

教師のゆとりで、子どもと向き合う温かい教育

古関先生のお話の中で、「震災後は子どもたちと教師との間にゆったりとした時間が流れた」という言葉が一番印象に残っています。未曾有の東日本大震災がおこり、教育現場では研修や行事が中断する事態となりました。その一方で、教師に心と時間のゆとりができ、子ども一人一人と向き合う機会が増えたそうです。

昨今、教育や育児に関する研究が進み、情報があちらこちらに溢れています。その中で、子どもたちの幸せのために何が必要かを考えていった結果、「あれもこれも必要」ということになり、子どもたちではなく周りの大人が必死になっている、時代の流れに振り回されているようになったと思います。

しかし、古関先生のお話を聞いて、子どもたちが求めているのは、やはり安心できる環境の中で自分の可能性を存分に発揮することにあると改めて実感しました。また、大人も然りです。大人もほめられたい、認められたいという思いがあるという旨のお話もお聞きしました。大人がいがみ合う関係でなく手を取り合う関係であれば、その輪の中で育つ子どもにもよい影響を与えることなのでしょう。私は、今後とも古関先生が実践されたような温かい教育・育児の場を整える活動に力をいれていきたいと思っています。

子ども一人ひとりと話すこと、家庭学習のこと

古関先生の講座の中で1番心に残ったのは、子ども一人ひとりと話す時間をとることです。4月～5月のとても忙しい時期に時間をとって話をすることを毎年やっているという話を聞いて、とても驚きました。「私にはとても無理!」と思って聞いていましたが、そうすることのメリットの方が大きいことが、聞いているうちに分かりました。休み時間などに子どもたちと話すことはあっても、悩みとか頑張っていることとかを一人ひとりからは聞けてないし、全員と話すのかということとそうでもないことに今さらながら気づきました。

また、家庭学習の話にも驚きました。ノート1冊を4日くらいで終わらせたという話。ノートの最後にお母さんやおばあちゃんからのメッセージが書いてあったという話を聞き、子どもたちが頑張っている姿とともに、それを見守っている家族の姿も浮かんできました。子

どもたちが先生を信じて自分から自発的に学習を進めていることが伝わってきました。今、私の勤めている学校でも家庭学習に力を入れているので、参考にできるところは生かしていきたいと思いました。

2日間、驚くことがたくさんあったので、自分のやり方、スタイルを見直していくいい機会になりました。



漢字学習・家庭学習、話を聞く3つのポイント やる気が出る「安心」・「遊び心」のある授業

古関先生のお話で印象に残ったのは、漢字学習・家庭学習の実践や児童の話を簡単に聞く3つのポイント、勉強嫌いな児童でもやる気が出る「安心」「遊び心」がキーワードの授業についてです。

まず、漢字学習・家庭学習は、私が試行錯誤していることだったので大変勉強になりました。古関先生は、その日に習った漢字を自主勉強でさせているそうです。また、その時には、その漢字を使った短文を書かせ、漢字だけの繰り返し練習をさせない、そうしないと、漢字の使い方を覚えられないということです。次の日に漢字テストをするそうです。その漢字テストも、「漢字相撲」と言って、15日間の漢字テストで80点以上を8回したら勝ち越しなど、遊び心があり、児童のやる気が出そうなやり方で、私も早速取り入れようと思いました。

次に、児童の話を簡単に聞くポイントです。私は、日々の授業、生徒指導、宿題や連絡帳の丸つけなどでなかなか児童一人一人の話が聞けていないのですが、先生は「今頑張っていることは何か」「困っていること、悩んでいること、心配なことは何か」「1か月後の自分のなりたい姿」について一人一人聞くそうです。そうすると、児童は「先生は応援してくれる人なんだ」と思って安心するそうです。これも、早速やってみようと思いました。

最後は、「安心」「遊び心」のある授業です。まず、算数では問題に出ている複雑な数字を「2」や「3」に置き換えて考えさせ、児童に「簡単だ」と思わせ安心させます。また、問題に児童の名前を使ったり、タレントの写真を使ったりして引きつけるそうです。実際にしてください、思わず「ふふっ」と笑ってしまいました。さらに、「そんなことでも？」というような所をほめたり、問題で1回児童が答えた答えを、違う子を当ててまた言わせたり、児童の集中が切れてきたら少しゲームをしたりするなど、児童が楽しみながら授業を受けられる工夫をたくさん教えてくださいました。

「普段の自分ではできているかな」と考えながら聞かせていただきました。新しく知った実践もありましたし、知っていたけれどそう言えばやっていないなと思う実践もあり、自分をふり返ることができました。とても有意義な2日間でした。

教職員増などを求める署名活動にご協力を!

教職員の会は現在、教職員の増員や少人数学級の実現を求める「教育全国署名」に取り組んでいます。先にお願ひしました署名用紙がお手元に残っていらっしゃいましたら、返送をお願いします。

教育署名 統一行動

☆①1月24日(木) 17:30～18:15 ②1月25日(金) 12:30～13:15

☆阿波銀ホール(郷土文化会館)東入口付近 (市民劇場の入場者等に署名を依頼します。)